



(米国ニューヨーク同日発表)

2022年 5月11日

ティファニー、ワールド・モニュメント財団 「金沢^{えんつけ}縁付金箔製造」伝統的職人技の継承国際支援決定

継承者育成等、文化遺産を支える伝統的職人技の持続的継承環境整備を目指す

2022年5月11日 — ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インクとワールド・モニュメント財団(WMF)は、本日、パートナーシップ契約を締結し、金沢市(市長村山卓)が金沢金箔伝統技術保存会(以下保存会)と推進する職人育成プログラムを支援する国際協力プロジェクトを立ち上げたことを発表いたします。これは WMF がティファニーより基金協力を受け、金沢市と提携し、今後 3 年間にわたり、金沢市事業である国の選定保存技術「縁付金箔製造」後継者育成プログラムを支援し、保存会他関連機関との協働、及び文化庁のサポートを得て、官民協働・国際協力で伝統的職人技の持続的継承を目指す試みです。

現在日本で製造される金箔のほとんどは金沢で生産されており、縁付金箔製造は日本の伝統的な製箔技術として2014年に国の選定保存技術として選定され、また2020年には、日本の木造建造物を受け継ぐための伝統技術の一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。しかしその技を持つ職人の数は減少の一途をたどり、また高齢化も進み、伝統的職人技の後継者育成の必要性が強く求められてきていました。

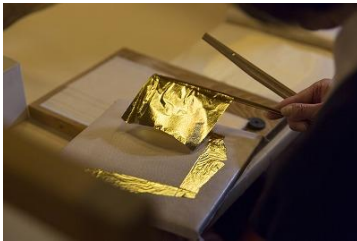
そして2021年8月、金沢市が初めて縁付金箔製造の後継者育成プログラムを独自事業として立ち上げ4人の研修生の採用を決め、10月より今年3月まで金沢職人大学にて座学研修を行ってきました。一方保存会でも文化庁のサポートを得て4人の育成を始めており、今回のプロジェクトでは、その合わせて8人の研修生を対象に基本週5日のペースで本格実習が保存会の技職人の技術指導のもとで行われることとなります。目下、WMFと金沢市との間で育成プログラム支援契約の締結に向けての調整作業が進められております。

WMFは1965年創立以来世界中で文化遺産保存活動(基本的に建造物)を続けてきており、その活動の一環として、建造物に欠かせない職人技保存継承活動を中国など海外で行ってきています。WMFの経験とティファニーの美しいクラフトマンシップの伝統を生かし、金沢市や保存会他金沢職人大学など地元及び他国内関連諸機関との協働を通じ、「縁付金箔製造」後継者育成のための、より実効性のある効果的なプログラムを国際協力・官民協働で研究・開発することも目指します。

このプロジェクトを始める今年 2022 年は、ティファニー日本上陸50周年、そして WMF の日本における活動20周年という節目にあたります。日本の伝統文化を継承することのプロジェクトを立ち上げることで、ともに、事業展開する地域社会のために更に積極的な役割を果たしていきます。

WMFによる日本での活動で、文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術である「伝統建築工匠の技」の保存を目的としたことは今回が初めてです。

「伝統技術が失われることでそれぞれの地域社会の文化的・精神的な糧となる文化遺産が存続の危機にさらされているのは日本に限らず世界共通の課題です。ティファニー、そして地元のパートナーの方々とともに金沢縁付金箔職人技を持続可能なかたちで次世代に継承していくための新たなプロジェクトを立ち上げることができることを、大変うれしく思います。」(ワールド・モニュメント財団、理事長兼CEO ベネディクト・モンロー(Bénédicte de Montlaur)のコメント)。



添付資料: ① WMF説明資料

この発表に関するお問い合わせは:

ワールド・モニュメント財団
稲垣^{みつお}光彦 日本代表
電話: 080-6726-1308
minagaki.culture@gmail.com

添付資料①

■ワールド・モニュメント財団

- World Monuments Fund -

本部所在地：Rockefeller Center, 600 Fifth Avenue,
25th Floor, New York, NY 10020

(米国ニューヨーク)

☎ 646-424-9594

URL: <http://www.wmf.org/>

日本代表部：神奈川県鎌倉市 ☎080-6726-1308

E-mail: minagaki.culture@gmail.com

理事長：ベネディクト・ド・モンロー

日本代表：稲垣光彦(みつお)

設立年：1965年(昭和40年：米国NYにて)

●財団の概要

ワールド・モニュメント財団(WMF: World Monuments Fund)は1965年に米国ニューヨークで設立された非営利民間組織です。国や文化の枠を超え、歴史的建造物などの文化遺産を保護・保存することを目的とし、世界各地で政府などの公的組織及び民間のパートナーと協力して、経済的・技術的支援活動や教育・啓発活動を行っています。本部を米国ニューヨークに置き、今日までの文化遺産保存支援箇所は世界112カ国、700カ所以上に及びます。

●主な活動内容

WMFの最初の大規模なプロジェクトは、1966年の大洪水で被害を受けたヴェネチアの建造物25点の修復でした。以来今日までに、アンコール遺跡など世界的に有名な歴史的な文化遺産のみならず、モダニズム建築やその地域社会以外には知られていない多くの貴重な建造物文化遺産を守るために日々活動しております。(詳細：www.wmf.org参照)



アンコールワット(カンボジア)



ポンペイ遺跡(イタリア)

また日本での活動は今年で20周年を迎えます。事例：

- **尼門跡寺院**(全国で京都・奈良に13カ寺残る)の修復・保存プロジェクト：京都の宝鏡寺(勅作堂)、霊鑑寺(奥書院の障壁画と天井の唐紙修復)、そして奈良の中宮寺(室内障壁画を含む表御殿の修復)、法華寺(防火及び庭園下の排水システムの復旧)の計4カ寺の修復を2003年～2008年にかけて支援。
- 「**鞆の浦**」(広島県福山市：2002、2004年に「ワールド・モニュメント・ウォッチ」(Watch後述)に選定され、同地区にある坂本竜馬ゆかりの旧魚屋萬蔵宅(きゅううおやまんぞうたく)の修復・再生を支援(2004年12月完了)。

- **京町家再生プロジェクト**(2010年～2017年)：京都の歴史的景観である京町家が、京都の伝統的木造都市住宅「京町家群」として、2010年、2012年の2回「Watch」に選定されたことを受け、2010年6月より始動。今日までに、釜座町町家(標準規模)修復(2010年11月完了)、旧村西家住宅(大型町家)修復(2012年完了)、四条町大船鉾会所の修復(2018年ユネスコ・アジア太平洋文化遺産保全賞「最優秀賞」受賞)の三つのプロジェクトが完了。
- 「**東日本大震災被災建造物文化財**」復旧プロジェクト：2012年、2014年の2回「Watch」に選定されたことを受け、千葉県香取市佐原の県指定建造物(7件12棟：2014年3月修復完了)、石巻市雄勝にある市指定文化財天雄寺観音堂(津波で崩壊するも奇跡的に部材が残り”奇跡の観音堂”と呼ばれた。2015年4月修復完了)の他、宮城県気仙沼の国登録建造物6件の復旧活動(進行中)を支援。気仙沼の修復保存プロジェクトは2021年ユネスコ・アジア太平洋文化遺産保存賞の「優秀賞」と「持続的開発特別賞」のダブル受賞を受けました
- **少彦名神社参籠殿**(愛媛県大洲市)：2014年Watchに選定。清水寺舞台にみられるような懸け造り様式の建築。昭和初期に建てられその大部分(約93%)が空中楼閣の如く溪谷に張り出す。2015年11月修復完了。2016年ユネスコ・アジア太平洋文化遺産保全賞「最優秀賞」受賞
- **旧香川県立体育館**(船の体育館)：2018年Watchに日本のモダニズム建築として初めて選定。丹下健三によるつり屋根構造で竣工は国立代々木競技場と同じ1964年。保存活動支援中。
- このほか2020年Watchに選定された愛媛県宇和島市岩松の小西本家修復による町並み保存プロジェクトと稲荷湯修復プロジェクト(東京都北区)が進行中です。
- WMFの支援内容には建造物修復の他、教育・啓発・記録制作などのプログラムも含まれます。



写真：奈良中宮寺表御殿(修復後：左上) 四条町大船鉾会所(中)、少彦名神社参籠殿(修復後：右上)

ワールド・モニュメント・ウォッチ(Watch)

アメリカン・エキスプレスを設立スポンサーとして、WMFが1996年より隔年で、“緊急に保存・修復などの措置が求められている文化遺産”を世界中からの申請を得て、選考リストとしてまとめ、広く配信し保護活動の必要性を訴えるという「文化遺産ウォッチ」プログラムです。 <https://www.wmf.org/watch>